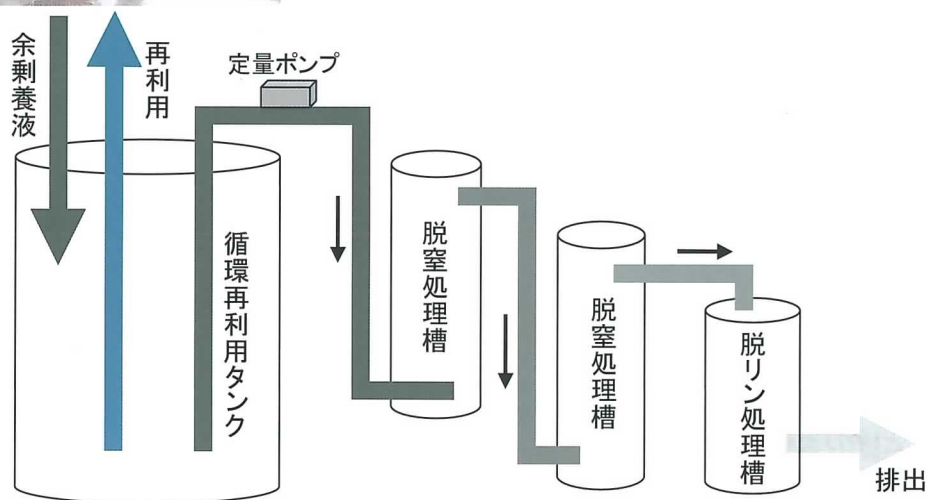


## ロックウール栽培の余剰養液の処理システム



処理システムのフロー

夏秋トマトのロックウール栽培では、利用した養液の25～35%が、余剰となり排出されるため、環境負荷の原因になります。

そこで、環境に配慮した処理システムを共同研究で開発しました。余剰養液の70～80%は、再びロックウール栽培に利用することができます。

また、残りの余剰養液は硫黄酸化菌などを利用した処理により、排出される硝酸イオンやリンを環境基準以下に削減できます。

この処理システムは設楽町のすべてのロックウール栽培農家（17戸、施設面積3ha）に導入され、今春から稼働します。（山間農業研究所）